

令和元年度第3回仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和元年9月26日(木) 午後3時30分

開催場所 仙北市役所角館庁舎 西側庁舎2階 第3会議室

出席者

(構成員)

仙北市長	門脇光浩
仙北市教育委員会教育長	熊谷徹
仙北市教育委員会教育長職務代理者	安部哲男
仙北市教育委員会委員	坂本佐穂
仙北市教育委員会委員	橋本勲

(市長部局)

仙北市副市長	倉橋典夫
総務部長	阿部慶太
総務課長	朝水勝巳
総務課主事	小林佳織

(教育委員会)

教育部長	戸澤浩
教育次長	三浦政喜
教育次長兼教育総務課長	浅利美智子
教育総務課課長補佐兼管理係長	小林龍夫

欠席者

仙北市教育委員会委員	細川伸也
------------	------

案 件

(1) 仙北市立生保内小学校の改修について

阿部総務部長 ただいまから、令和元年度第3回仙北市総合教育会議を開催
したいと思います。

はじめに、門脇市長からごあいさつをお願いいたします。

門脇市長 教育委員会委員の皆さまには、お疲れのところ大変恐縮であ
りますけれども、いくつかの協議案件、また、その他の場面で
も皆さま方からご意見を頂戴したい事案がありますので、よろ
しくお願い申し上げたいと思います。

9月もいよいよ終わりに近づいております、令和元年の上
半期を終えるという状況になっております。子どもたちは、文
化活動、スポーツ活動の分野で大変大活躍をしていただいております。仙北市の将来を担う子どもたちの活躍を見る度に、大人の私たちがもう少ししっかりしなければいけないというふうな思いも強く思っております。そういう中で、その子どもたちをさらに健やかに育むための総合教育会議だというような認識であります。世の中が複雑になっておりますので、あちらを見てればこちらが立たずという状況もありますけれども、最も良い選択を皆さま方と一緒にしていきたいという思いで、様々な案件について共に共有していきたいと思います。よろしく
お願い申し上げたいと思います。

阿部総務部長 次に、熊谷教育長からごあいさつをお願いいたします。

熊谷教育長 教育委員の皆さまには、大変お疲れのところだと思います
が、どうかよろしくお願いいたします。総合教育会議は、私たち教育委員会と市長並びに市長部局総務の皆さんとの貴重な情報交換や色々な意味での連携、より良いものを目指しての会議でございますので、今、市長からもありましたけれども、よ

り良い仙北市の教育の向上発展のために、議論を尽くしていきたいと思っておりますので、どうかよろしく願いいたします。

阿部総務部長 ありがとうございます。それでは、協議案件に入りたいと思います。本日の協議案件は、「仙北市立生保内小学校の改修について」になります。市長の方から進行をお願いいたします。

門脇市長 はい。それでは、案件になっております、仙北市立生保内小学校の改修についてであります。これまで皆さま方からたくさんのご意見も頂戴し、方向付けをさせていただきたいという思いで作業を進めております。明日閉会する仙北市議会でも総務文教常任委員会等での委員のご発言などもありまして、皆さま方とそれを共有しながら、方向性の認識を持ちたいということでもあります。まず、教育委員会の方から説明をお願いします。

浅利教育次長
兼教育総務課
長 この資料につきましては、9月20日に総務文教常任委員会の委員の皆さまと、生保内小学校を視察させていただきました。その際に、この事業の内容及び予算の計画等について説明はいたしました。中々時間のない中でしたけれども、学校の体育館、北校舎、南校舎、2階をそれぞれ全部見ました。子育ての方の放課後児童クラブの運営についてもお話をいたしました。やはり、廊下等の狭さや教室の使い方、学年によって人数の多いところは狭そうだとかそういう話をしました。ただ、終了後に協議は行っていませんけれども、そういう視察をさせていただいたことは、委員の皆さまにもご理解をいただいたと解釈しております。説明については、以上でございます。

門脇市長 はい。ありがとうございます。私も校長先生をはじめ教職員の方々にご案内をいただいて、小学校の内部を見学させていただくことができました。校長先生からは、仮に児童数が減っていても必要な教室というのは必要なので、その点をご理解を

いただきたいという話は伺っております。それは最もだという
思いも持っております。一方で、総務文教常任委員会委員等の
間の議論では、これまでの計画のままで改修をしていくという
ことに、児童数の減少があることと、将来展望がどのような形
で地域に支えられる学校運営ができるのかというようなこと
で、いくつか問題提起もいただいております。この状況で皆さ
ま方に今回総務文教常任委員会を開催していただいたという
ことであります。総務文教常任委員会でのやり取りについて、
もう少し、その場面にいた方から状況をお話いただきたいと思
いますけれども、お話いただけないでしょうか。

戸澤教育部長

深い議論はありませんでした。先ほど浅利教育次長兼教育総
務課長がお伝えしたとおり、この資料の説明をして、校舎を全
部視察して、校長先生も交えて話をし、改修については、い
つやるとかどういう方向等は抜きにして、議員の皆さんから理
解はいただいたのかなと思っております。先日は、視察をした
段階ですので、後日、再度他にも色々な資料を収集して作成し
て議論いただくと、そういう説明をしました。総務文教常任委
員会の際に、地元の議員の方から、先ほど市長がお話したとお
り、今の児童が減っていく中で全部改修するのか、この財政難
の時そういうことも考えていかなければいけないのではない
か、そういう発言がありました。この小学校の改修については、
これをどうするのかとか、先ほどもお伝えしたとおり深く話し
合いはなかったです。ちょっと遅いんですけども、これから
深めていかなければいけないと思っております。

門脇市長

ありがとうございます。今、戸澤教育部長がお話のとおり、
実は私たちもこの改修について、深く将来の学校の姿を見据え
た議論をしてこなかったということは、これは反省しなければ
いけないと思います。私の思いの中では、今まさにこのような
状況で実施設計に着手するということは、結果的に考えると、

現状の校舎をそのままリノベーションしていくという基本的な考え方の事業スタートというふうに、捉えざるを得ないという現状になってしまうということを懸念しておりまして、教育委員会、熊谷教育長をはじめ多くの皆さまには、私が納得できる、議会が納得できる改修の方向性をしっかりと協議するその時間をつくるべきではないか、という話をさせていただいているという現状であります。そういう考え方で今日を迎えているという状況であります。委員の皆さま方からは、またご意見をいただきたいと思っておりますけれども、前回もお聞きしましたけれども、今、議会でそのような状況の発言をいただきながら、もう10月に入るといふ状況でありますけれども、安部教育長職務代理者の方から、この現状の中でベストを探るといふことで、どのようなご判断、どのような行動が必要なのかということについて、ご意見いただければありがたいと思っております。

安部教育長職務代理者

まず1つ目は、門脇市長さんがお話された、学校の将来のあるべき姿というのが十分議論されてこなかったというのは、私も教育委員の1人として責任を感じております。ただ、一方で校舎自体は、あちこち老朽化が進んでいて改修を迫られるような状況になっていて、そういう狭間で判断に苦しむというのが正直なところです。ただ、この長寿命化改修事業を学校の校舎自体が早急にやらなければいけない状況にある、そうだとすれば、この間もお話したことですが、将来を見通した子どもの減少も踏まえて、将来空き教室がたくさん残るといふような改修は避けたいという思いです。非常に矛盾があるのですがけれども、一方で将来像が決められないでいる、しかし学校は老朽化が進む、どうしたらいいのかと悩んでおりますけれども、改修を急がなければいけない状況だとすれば、子どもの将来の減少も含めて考えた方が良く思っています。

門脇市長

ありがとうございます。橋本教育委員、お願いします。

橋本教育委員　　今、安部教育長職務代理者の方からもお話がありましたけれども、まず老朽化が進んでいるので、生保内小学校については、長寿命化事業の交付金事業で、子どもたちのために速やかに改修していただきたいというのが私の思いです。ただ、前回の仙北市の子どもたちの出生数等の現実を見た時に、やはり、もう少し議論や意見を聞く時間はあってもいいのかなというふうに思います。ただ、交付金事業で改修をすとなれば、タイムリミットがあると思いますので、そのタイムリミットに間に合うように、議論や意見を聞いて方向性を定めて、実施設計を行って、交付金事業で改修をしていただきたいというのが私の思いです。

門脇市長　　ありがとうございます。坂本教育委員、お願いします。

坂本教育委員　　前回の会議から、私も意見を自分の頭の中で整理してみましたけれども、やはり、この交付金事業で生保内小学校の改修を実施していただきたいというのが一番の気持ちです。前回は、北側校舎をどうするかとか、小中一貫校を見据えての改修という声もありました。ただ、前回の時に三浦教育次長から出たお話だったと思いますが、北側校舎を改修しないとなった場合、それでも尚且つ老朽化は進んでいるので、危険ということを考えて全部改修するべきではないかという考えです。小中一貫校に関しましては、改修とたまたま時期が重なっただけの案で、これは全く根本的に考えるスタートラインが違うのではないかと考えております。

門脇市長　　ありがとうございます。熊谷教育長からお願いします。

熊谷教育長　　私たち教育委員の中でも、ほぼ同じですけれども、若干の意見の違いがあるという現状でございます。私としては、色々な

現実的な考え方をして、交付金を活用しながらタイムリミットがある中でより柔軟な対応で、議員の皆さまにもご理解いただけるようなアプローチの仕方について、少し時間をいただきながら検討していければと思います。

門脇市長

ありがとうございます。現実的な話をすると、総務文教常任委員会、もしくは、協議会の中で、生保内小学校の改修に向けた議論の時間、今までは短くしか確保できていなかったという現状もありますので、議会の皆さまからご理解をいただくということは市民の皆さまからご理解をいただくということでもありまして、結果として子どもたちを主役とした学校生活の実現に繋がるという考え方で進めていくとすると、検討時間、説明時間の確保が何よりも重要ではないかということでもあります。ということで、先ほどから話があるとおり、時間的猶予をいただくとすると、今回の長寿命化改修事業の補助対応がどうなるのかということ、改めて教育委員会の方から説明をお願いします。

小林教育総務
課課長補佐兼
管理係長

現在、令和2年度以降の事業として、国の方に実施の方向でということで届け出等はしてございますが、10月に再度調査がございまして、その際に事情を説明して、補助金の一時取り下げという方法は取れるかとは思いますが。その代わり、その事業をどこで見切りをつけるのか、その都度、来年度の6月に再度そういう調査がきますので、その時点までにある程度議論の方向性が取れているかどうかというのが、まず1つだと思っています。仮にそこで通らなかったとしても、令和2年の10月にもう一度調査がきますので、その際に交付の時期の設定等で令和3年の事業ということでエントリーすることもできなくはないのですが、これまでの交付金の色々な対応を見てますと、やはり、年度当初の段階で手を挙げると次年度に付きやすい印象がございまして。秋に手を挙げても、予算の枠の中からは

じかれることがあります。まず、10月に交付金の一時取り下げをする、令和2年6月調査、これは令和3年に補助金をいただけませんかという形の届け出になりますので、その時点までにある程度の方向性の形をつくれるかどうかというのが、1つのポイントだと考えております。

門脇市長 ここで休憩に入ります。

(休 憩)

門脇市長 会議を再開します。休会中にも皆さま方から色々のご意見をいただきましたけれども、結果としては、子どもたちに対して、できるだけ早く良好で公平な教育環境を提供することが私たち大人の責任ですので、この責任において可及的速やかな対応を取りながらも、市民の方にしっかりとご納得のいただける、そういう学校のあり方を議論させていただくということ、教育委員会と市長部局と一緒にやって対応させていただきたいと思っております。現実的には、来年度の事業申請に向けて、そういうスパンでやらなければいけないということだと思っておりますので、ご理解をお願いしたいと思っております。

この案件については、方向付けとさせていただきたいと思っております。色々と思いはあるかもしれませんが、どうかよろしくお願い申し上げます。

次に、その他ですけれども、報告事項等何かありますでしょうか。

門脇市長 ないようですので、進行をお返しします。様々なご意見をいただきありがとうございました。

阿部総務部長 長い時間、ありがとうございました。これを持ちまして、令和元年度第3回仙北市総合教育会議を終了します。お疲れさま

でした。

(午後 4 時 4 0 分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員